

# 蹴友

開成サッカー部  
OB会誌 No.29  
2010年5月12日

会員のみなさんの連絡、お問い合わせは

開成サッカー部OB会事務局

〒113-0023 東京都文京区向丘1-9-28

一音寺内 TEL 03-3811-4061

副会長中村の観戦記3本立て！

## ☆観戦記① OBチーム

### 天皇杯の東京都予選を兼ねた「東京カップ」に 荒川区代表として出場し、1回戦を突破！

開成学園サッカー部OBチーム（OB会でサポートしているH17卒の草川君の代が中心のチーム）が、所属している荒川区社会人リーグの代表として何と天皇杯の東京都予選を兼ねた「平成22年度東京都社会人サッカーチャンピオンシップ（東京カップ）」に出場することになり、名前だけですが監督である私、中村は、当然ながら試合をベンチで観戦しました。

1月31日（日）の1回戦は駒沢公園第一球技場で行われました。世田谷区社会人リーグの代表チームであるラ・セレクシオーネ・世田谷（昨年度は3回戦まで進んだ）と好ゲームを展開し、前半0-0、後半1-1でPK戦となり、



入場風景



▼突飛な話だが、サッカーには△四季Vがない、と思う。満開のサクラを眺めながらボールを蹴る……などとは、まず思ったことがない。もつとも大方のスポーツは、△四季Vと無縁かも知れないが。▼墨堤のサクラを楽しみながらボートを漕ぐ……これは、ある。野球も、打席に入って外野席の背後の木々の梢の変化を知る……これも、ある。▼サッカーには△間Vというものがないのだ。厳しい一瞬一瞬が九十分間にわたって続いてゆく。しんどい話だ。堅固な精神と頑強な肉体が要求される。加えてこれからは今まで以上に、オールラウンドな技術・戦術眼が選手全員に要求されるようになるだろう。▼野球はインニング毎に△間Vが用意されている。ベースブルースの体型でOKなのだ。観客も一時、緊張から解放される。

（順）

P K戦4―2で勝利しました。ベンチに入っていた私中村も、後半C Kからヘディングで先制した時とP K戦で開成の5人目が決めて勝ちが決まった時には思わずガッツポーズをしていました(ファーガソンやモウリーニユの気持ち少しは理解できたかな・・・)。試合経過をもっと書きたいのですが、「東京フットボールネットワーク」



勝利後

ク」に以下のような戦評が掲載されましたので、素人サッカー記者の執筆は辞退させていただきます。

以下は「東京フットボールネットワーク」の記事です。

東京都社会人サッカーチャンピオンシップ(東京カップ)の一次戦、ラ・セレクシオーネ・世田谷(世田谷区代表) 対 開成OB(荒川区代表)の試合が31日、駒沢第一球技場で行われ、開成OBがP K戦の末に勝利し2回戦へと駒を進めた。

### 【戦評】

序盤はセレクシオーネ世田谷がグラウンド全体を使った攻撃で相手ゴールを脅かせば、開成OBは中盤のこぼれ球をシンブルにつなぎ相手ゴールに迫った。前半終了間際、セレクシオーネ世田谷は立て続けに決定機を迎えるが、相手G Kに阻まれるなど得点は奪えず、前半はスコアレスで折り返す。

後半立ち上がり、開成OBは右からのコーナーキックを頭で叩き込み先制する。しかし、セレクシオーネ世田谷も後半五分、ゴール前で倒されP Kを獲得。これを確実に決めて同点に追いつく。終盤、両チー

ム共に次々とゴール前にロングボールを入れ得点を狙うが、結局得点は生まれず勝負はP K戦へ。開成OBが4―2で制し2回戦へと駒を進めた。開成OBは2回戦で東京都リーグ2部の東京蹴球団と対戦する。2月7日(日)の2回戦は三菱養和調布グラウンドにてナイターで行われました。東京都社会人リーグ2部の東京蹴球団はさすがにレベルが高く、ポジエッションも6・4くらいでボールを支配され、結果は0―3(前半0―1、後半0―2)の完敗でした。今回も試合経過を詳しく書きたいのですが、またまた「東京フットボールネットワーク」に以下のような戦評が掲載されましたので、素人サッカー記者の執筆はご遠慮させていただきます。しかし、格上の相手に必死に食らい付こうとする真剣なプレーは監督として非常に嬉しかったし、観客としてもいいサッカーを観せてもらって楽しかった。来年は、2回戦突破を目指してがんばりましょう。

以下は「東京フットボールネットワーク」の記事です。

東京都社会人サッカーチャンピオンシップ(東京カップ)の一次戦、東京蹴球団(東京都社会人リーグ2部)対 開成OB(荒

川区代表)の試合が7日、三菱養和調布グラウンドで行われ、東京蹴球団が3―0で快勝し、準々決勝に駒を進めた。

### 【戦評】

開始5分、東京蹴球団はペナルティエリア手前から鮮やかなミドルシュートを決めて先制する。さらに攻守に連動性を見せる東京蹴球団は、その後も再三ゴールチャンスをつくるが、追加点は奪えず前半終了。後半、立ち上がりから開成OBがロングシュートや直接F Kで相手ゴールを脅かすが、得点は奪えない。逆の後半25分、東京蹴球団がカウンターで抜け出し落ち着いてゴールに流し込み2点目を奪う。さらに東京蹴球団は試合終了間際にも1点を追加し、結局3―0で快勝し、準々決勝進出を決めた。東京蹴球団は準々決勝で東京都リーグ1部のF C新宿と対戦する。

←「東京フットボールネットワーク」のHP  
<http://www.tokyofootball.com/>

### 追伸

翌2月8日(月)に送られてきたキャプテン草川君からのメールの抜粋を紹介します。「…(中略)。昨日は如何ともし難い実

## ☆観戦記② 高校

### 地区大会のブロックトーナメント決勝で強豪関東一と1..1で引き分け、さあP K戦だと喜んだら何と延長戦があった?!

東京都の新人戦の地区予選(1地区―荒川区、江戸川区、江東区、墨田区、葛飾区)は、26校を4ブロックに分けてトーナメントを行ない、各ブロックから勝ち上がった4校がリーグ戦を行ない上位2校がベスト32として関東大会の東京都予選に進みます。「蹴友」2009年秋号で書いたように、この地区での強豪はかえつ有明、関東一、都立葛飾野、開成の4校です。新人戦の観戦記を毎年掲載しているので、日程を確認しよ

ント戦では区民大会が準決勝敗退、選手権が決勝敗退)し、今年からC部に上がっています。OBチームでは参加希望者を募集していますので、H17卒の草川君までご連絡ください。

←草川君のメールアドレス

[pep\\_4\\_xavi\\_6@yahoo.co.jp](mailto:pep_4_xavi_6@yahoo.co.jp)

←「荒川区サッカー協会」のHP

<http://www.arakawafa.org/>

うと昨年の10月半ばに東京都サッカー協会のHPにアクセスして啞然としました。何とクジ運の悪いことかと…。かえつ有明はシードされているようで地区予選には出場していませんでしたが、開成の入ったブロック(6校)の中に、何と関東一と都立葛飾野が入っているではありませんか。開成が関東一と都立葛飾野の勝者とブロックトーナメント決勝で対戦するのは誰の目にも明らかでした。開成は順当に都立葛飾商





業を2・0で破り、関東一は都立葛飾野との激戦を2・1で制して11月15日（日）のブロックトーナメント決勝を迎えました。関東一には8月の高校選手権の地区大会でも対戦して3・0で敗れている（私一中村は観戦出来なかったが）ので、今度はどんな戦い方をするのか楽しみにしながら都立葛飾野のグラウンドに向きました。

試合は関東一のキックオフで始まりましたが、キックオフ後の開成のフォーメー

ションを見てビックリしました。10番だけをワントップとして残し他の全員がハーフコートのさらに半分位まで引いてしまったのです。関東一のワントップにはマンマークを付け、さらにスイーパーを残した1・4・4・1のような布陣（2000年代のイタリアの「カテナチオ」よりも守備的で、強いて言えば将棋の戦法にある「穴熊」みたい：）です。突破力のある関東一のサイドハーフにボールが渡るとまず開成のサイドハーフがマークに付き、余ったサイドバックがサポートしながら関東一のサイドバックの上がりにも対応していました。このような超守備的なフォーメーションなので、開成の攻撃は人に強い10番（常時2・3人でマークされていた）がクリアボールをうまく拾えた場面に一気に逆襲に出るという戦法しかありません。前半では1度だけ10番が上手く競り勝ってボールをキープ出来た時に後方から3人が駆け上がってカウンターを仕掛ける場面があっただけでした。ボールは完全に支配（ポゼッションは8・2くらい）されていましたが、関東一も流石に攻めあぐねFKやCKでしかチャンスを作れないまま0・0で前半を終了しました。前半を観た私の感想は、「ハー

フコートのさらに半分位まで引いてしまったのは余りにも引き過ぎで、全体的にもう少しラインを高くして守った方が逆襲のチャンスも増えたのではないか。また、引き過ぎるとミドルシュートを打たれやすくなるし、バックがブラインドになってGKは守りにくい。特に前半は逆光だったのでもっとミドルシュートを打たれていたらヤバかった。」というものでした。しかし、前半の0・0は得点を与えないで相手の焦りを誘い、少ない逆襲のチャンスに賭けるという開成のゲームプラン通りだったと言えるでしょう。OB会で会った新出コーチにその話をしたら、「選手が関東一の攻撃を予想以上に怖がり引き過ぎてしまった」と言っていました。

後半も同じような展開でスタートしましたが、関東一はハーフタイムで指示があったのでしようミドルシュートを多用し始めました。5分過ぎにペナルティエリアの左角を入った付近で関東一にボールをキープされ縦に抜け出ようとしたところに、開成のバックのスライディングが遅れて入りPKを取られ1点先取されました。1点取られたので開成がどこで仕掛けてくるかと興味深く観ていると15分過ぎに選手交代を行

ないました。180cm以上はある大型FWを中盤の選手と入れ替え、ワントップにして攻撃に厚みを付ける作戦に変更です。守備が身体を張った守りで何とか追加点を凌いでいると、30分ごろにチャンスが訪れました。関東一のサイドバックが攻め上がり、開成のワントップと関東一のバックが2・3になった局面で、開成サイドからのロングフィードにペナルティエリアの左角付近で10番が相手バックに競り勝ち、飛び出して来たGKを見て中に詰めていた交代で入った19番にナイスパス。19番はサイドキックでゴールに流し込みました。待望の同点シュートが決まり、得点者が開成ベンチに飛び込んで行きました。暫くして1・1で後半も終了し、「これでPK戦だ、流れは開成にある、勝てる」と私が一人で興奮していると、何と延長戦が始まる雰囲気になっていきます。えっPK戦じゃないの（あとで東京都高校サッカーのHPでレギュレーションを確認したら、地区大会のブロックトーナメントは決勝だけ10分ハーフの延長をやることでした）：

10分ハーフの延長戦が始まりました。関東一の監督の声がひと際大きくなり、開成の厳しいチェックを審判にしきりにアピー

ルしていました。先に点が取れば関東一は焦って開成のペースになるのだから期待していたのですが、3分過ぎに中盤でのルーズボールを相手のハーフに拾われ2人がチェックに行ったのをうまくかわされた後、タイミング良く放った20メートルほどのミドルシュートがゴール右上に突き刺さりました。キーパーは手に少し触ったのですが、逆光で見にくかったのでしょうか弾き出せませんでした。このナイスゴールで勝負は付きました。延長後半にもう1点を追加され、1・3での敗戦となりました。し

## ☆観戦記③ 中学

**「首都圏私立中学校チャンピオンズカップ・本大会」に東京都大会優勝で出場したが、予選リーグで敗退！初戦のVS桐光中でのもったいない敗戦が最後まで響いた！**

「蹴友」2009年秋号で書きましたように、開成中は8月に東京都の私立中学67校が参加した「首都圏私立中学校チャンピオンズカップ・東京都大会」に何と優勝（ブロックの準決勝、全体のベスト16で対戦した曉星中に1・0で勝利）し、ベスト8に残っ

ばらくしてHPで各ブロックから勝ち上がった4校のリーグ戦の結果を確認すると、関東一は6・0、4・1、2・0の圧倒的な三連勝で勝ち上がっていました（2位は1勝1敗1分の都立東）。開成は本当にクジ運が悪いな：

OBの皆さん、現役の試合を観るのはなかなか面白いですよ。私も時間を作って観に行きますので、試合場でお会いしませんか：

←「東京高等学校体育連盟サッカー専門部」のHP  
<http://tokyosoccer-u18.com/>

た他の7校と共に12月中旬から開催された「首都圏私立中学校チャンピオンズカップ・本大会」に出場しました。埼玉スタジアム2002のサブグラウンドで行われたこの本大会は、各予選大会を勝ち上がった東京都から∞校、神奈川県と埼玉県から3校ず

つ、そして千葉県からの2校を加えた16校が4チームずつ4ブロックに分かれて予選リーグを戦い、各ブロックの上位2校が決勝トーナメントに進出するというものでした。私は「何と言っても東京都の優勝校ですから、予選リーグは順当に勝ち上がるだろうけどやはり初戦は重要だ」との思いから、またまた女房には内緒の半日休暇（サラリーマンスタイルで出掛けただけでバレー）を取って初戦（12月16日）のVS桐光中（神奈川県2位）を観に行きました。大会本部に観に来てくれたS57卒の川崎君と「開成学園サッカー部OB会の者です」と挨拶に行くと、協賛金20万円が効いているのかストーブの前に席を作ってくれての観戦となりました。本部の方は「相手の桐光中は今日2試合、合計（約）4時間前に学習院中に3…1で勝利）なので開



成の圧勝でしょう」なんて言ってくれるので私と川崎君は完全に楽勝気分になっていました。前半が始まりました。今日2試合目の桐光中はデフェンス重視のワントップのフォーメーションで逆襲からの速攻パターンで入って来ましたので、開成中は7…3くらいのポジショニングでボールをキープしながらバックや中盤でボールを回し、得点力のある10番へのパスを狙っていました。10分過ぎには左サイドを崩してからのセンターリングがうまくGKの頭を越えてフリーの8番に繋がったので、「よし！先制点だ！」と椅子から立ち上がった瞬間、8番のダイビング気味のヘディングは何とナイスクリアになっていました。結局、前半は圧倒的な開成中ペースなのに点が取れないという嫌なパターンで終了しました。後半もスタートから開成中ペースで2…3度チャンスがあったのですが、決めきれないでいる開成中を勝利の女神が見放したような失点が後半20分過ぎに続きました。桐光中はワントップの逆襲狙いですが、開成中は2人でそのワントップをカバーしていたのですが、後半20分ごろ左サイドからのロングフイードへの処理を2人のバック

がもたつく中、桐光中のワントップに2人の間に入り込まれ、キーパーの出鼻を浮かされて先制点を取られてしまいました。さらに2分後、開成中が攻め込んでいた局面で桐光中がやっとクリアしたロングボールを下がって処理しようとしたバックと飛び出したキーパーが譲り合う中、またしても桐光中のワントップに先に触られダイレクトのループシュートで点目を入れられてしまいました。結局、今日2試合目の桐光中のデフェンシブな戦略に見事にハマってしまった、0…2で大事な初戦を落とした訳です。この後味の悪い負け方が尾を引いたのでしょうか、翌日（12月17日）のVS学習院中（東京都8位）は1…2の逆転負け、最終戦（12月24日）のVS秀明中（埼玉県3位）は0…1での完封負けで予選リーグ最下位となり、開成中の首都圏



私立中学校チャンピオンズカップは終了しました。

決勝トーナメントは1月5～6日で行なわれ、神奈川県のサラジオ学院中が千葉県の麗澤中に2…0で勝利し、首都圏私立中学校チャンピオンズカップの初代チャンピオンとなりました。テレビ埼玉はこの大会の様（ダイジェスト）を1月16日（土）20…00～21…00で放映したのですが、番組提供に「開成学園サッカー部OB会」と名前は出るわ、司会者が気を使って「予選リーグでは東京都大会優勝の開成中が3連敗する波乱があった」なんて言ってくれるなど協賛金20万円の威力（テレビ埼玉の専務が開成のOB）を変な場面で感じてしまった次第でした。

OBの皆さん、多大な協賛をいただきありがとうございます。次の2010-11の首都圏私立中学校チャンピオンズカップでのリベンジを期待して応援を続けましょう。←「首都圏私立中学校チャンピオンズカップ」のHP <http://www.tvs-planning.jp/championscup/> ↑「東京中学校体育連盟サッカー専門部」のHP <http://www.soccer-tokyoctr.jp/>

（S47卒中村利尚記）



2009 首都圏 ChampionsCup のプログラムと出した広告



## 会長企画ゴルフコンペのご案内

- 時： 09年9月16日（木） 7時30分集合  
 ◇場 所： 千葉カントリークラブ 川間コース  
 ◇開 始： 9時30分スタート  
 ◇参加者： 5組20名  
 ◇参加費： 2万円  
 ◆申込み： [fujisakidt@msn.com](mailto:fujisakidt@msn.com)



お世話になりましたOBのみなさん、OB会のみなさん  
 親睦と健康と益々のご活躍とよい人生をめざして  
 ぜひいっしょにプレーしましょう。

※企画の手伝いをしてくれる人募集中！ 連絡はOB会事務局まで。



# 連載『私の青春とサッカー』

榮 隆男（昭和33年卒）

## ①開成から早稲田へ

同学年の広瀬、平岩と私が高三の秋までボールを蹴っていたのは、優勝して東京代表になるという強い思いがあったからであつた。高二のメンバーはゼロ。しかし、高一には、大内、見方、小林、布上、有川、春日井、大腰、佐久間、深川など、力のある選手が揃っていて、勝利もあながち夢ではなかったのである。

ベスト16で暁星と対戦。互角の試合であつたが、GKが取り落としたボールを蹴り込まれた失点で、0対1の負け、その暁星が東京代表となつた。

この敗退の悔しさはあつたが、むしろサッカーの面白さに魅せられて。大学でもサッカーを続けようという熱い思いに駆られていった。しかし、不勉強がたたつて受験は失敗。挙句の果てに、浪人一年目は坐骨神経痛に陥り、棒に振ってしまった。二年目、リハビリに励みながら受験勉強にも取り組み、サッカーをやるなら早稲田でと

いう思いをやつと遂げた。

しかし、二年のブランクに不安が残つた。そこで、早稲田大学ア式蹴球部主将宛に、入部したいが不安がある旨の手紙を書いた。すると、新キャプテンからすぐに返事が来た。自分も二浪して入部した。心配しないで春の練習が三月から始まるので来るように、との文面であつた。

発信人の新キャプテンの名は「川淵三郎」。昭和三十五年（1960年）春のことであつた。今から50年前のことである。

はじめて立つた、春浅い東伏見のグラウンドは、開成のグラウンドと同じ赤土で違和感は無かつたが、さすがに広かつた。隣接するラ式蹴球部（ラグビー）のグラウンドからは、激しい練習の息づかいが伝わってきて、大学の大人のスポーツの場の雰囲気はひしひしと感じられた。

新入生は、広島から3名、大阪から1名、愛知・熱田から2名、岐阜から1名、静岡から2名、東京から3名、茨城・日立から

2名、栃木から1名、仙台から1名、計16名であつた。練習初日、私は隊列の先頭に立つてグラウンドを回つた。

入学式前の練習ではあつたが、一人を除きほぼ全員が参加し、一週間後、送れてやつて来たのが松本育夫であつた。すでに足慣らしの出来ていた私たち一年生の練習に加わつた初日、彼が大きく息を切らしていたのが印象に残っている。

入学式が済み、授業が始まる頃には、身体も慣れてきて、一ヶ月もすると、激しい練習にも徐々に適応していき、実戦形式の練習も始まつたが、私は、同級生には負けないという自負をひそかに持つようになっていた。理由は走力、特に短距離のスピードでは絶対に負けないという自信があつたからである。またボールコントロール、特にドリブルでも注目されて入部してきた何人かとも大差はないということを感じていた。開成で坂上さん、服部さん、松本さんといった先輩に教えられたことが大学でも通用すると感じていた。無論、宮本征勝のような群を抜いた上級生が大学には居て、大きな目標になっていたことも事実であつた。

（次号へ続く）

## 榮隆男氏プロフィール

昭和14年6月 東京都出身  
開成高校卒業後早稲田大学に進む。



早稲田大学で蹴球部在籍。1979年よりフットサルにかかわり現在に至る。

1983年よりフットサル連盟理事長。1994～2004年まで日本サッカー協会特任理事（フットサル委員長）

日本のフットサル発展の中心的役割を果たす。2006年、同連盟退任。



昨年のフットサル大会風景

## 2010年「OB親睦一学年対抗フットサル大会」

6月6日（日）ジョモニスタ南与野にて開催！

開成サッカー部OB会では、OB間の親睦を図るために、今年も以下のように、「OB親睦学年対抗フットサル大会（5名以上で1チーム）」を開催いたします。

同期のメンバーなどに積極的に声をかけていただき奮ってご参加ください。

もちろん、個人での参加も大歓迎です。

30歳以上のOBや40歳以上のOBも体力に合わせて、怪我に気を付けながら楽しくフットサルをやっていますので是非ご参加ください。

●日時：2010年6月6日（日）12：30 クラブハウス集合！

13：00～16：00でフットサルコート（人工芝）を3面使用

大学生OB中心に「ガチンコフットサル」

30歳以上OB & 40歳以上OBは「それなりフットサル」

●場所：今年は、ジョモニスタ南与野（南与野駅徒歩5分）

〒338-0832 埼玉県さいたま市 桜区西堀 9-17-4 048-859-6701

ジョモニスタ南与野のHP <http://www.jomonista.com/myono/>

●懇親会：今年もゲーム後（17：00頃から）、S54卒の石田先輩経営の「千佳勢（北浦和駅そば）」で懇親会を行ないます。

フットサル場から徒歩15分くらいです（懇親会だけの参加も大歓迎）。

千佳勢のHP <http://www.morikuma.co.jp/senkase/index.html>

●申込：各年代、または前後の年代でチーム（5名以上で1チーム）を結成して、私・中村（[toshinao.nakamura@nomura.com](mailto:toshinao.nakamura@nomura.com)）に、参加希望メール（ゲームに○名、懇親会に×名）を出してください。個人参加の場合も人数把握のために参加希望メールをください。

## 追悼 高城泰彦元会長

昭和29卒 松本 順昭

平成二十一年十二月十日、開成学園サッカー部OB会の初代会長、高城泰彦先輩（昭和二十五年卒）が亡くられました。

平成六（1994）年、母校サッカー部が英国の名門イトトン校のサッカー部と国際試合を戦ったのを機に、OB会の結成が実現し、高城泰彦先輩は、推されて初代会長に就任されました。

その流れの中、高城先輩の指導のもとで、開成サッカー部の歴史の調査が進み、その発足は、昭和二（1927）年の「蹴球部」の創設に遡り、我が開成サッカー部は、七十年になんなんとする歴史を有することが判明しました。

その成果に基づいて、平成九（1997）年、文京区・椿山荘を会場に、「創立七十年祝賀会」が催され、さらに、平成十四年秋には、A5版226ページの『開成学園サッカー部七十五年史』が刊行されるに至りました。

この間、終始一貫、高城会長はよく後輩

を指導して着々と会務を進め、上記の諸々の成果を上げ、開成サッカー部OB会の基礎を堅固なものとすることに貢献されたことは、OB諸氏のよく知る所であります。

高城先輩が開成で過ごした時代は、まさに第二次大戦後の混乱期であり、当時の生徒たちは日々の食料を確保するのに汲々たる時期で、クラブ活動を楽しむ十分な時間も資材もなく、サッカーをするにも、ボールの確保さえ俟たずしてました。ある時、誰かの蹴ったボールが、当時グラウンドの傍らにあったネズミモチの高い梢に引っかかって、落ちて来ない。高城先輩が引き受けてボールを取りに木に上ったのは良いが、見事に四メートルほどの高さから転落。それでも不思議に怪我のなかったことが記憶にあります。

スパイクシューズを履くものは部員の一部に過ぎず、大方は布製運動靴でボールを蹴る。十一着の試合用のジャージを揃えることが出来ず、パンツは一応黒に統一したもの、部員各自に用意した白いシャツを着用、左胸に、これだけは業者に作らせた「ペン剣」のフェルトのマークを付けることで試合用のユニフォームとしたような、実に貧しい時代でした。

高城先輩の学年・昭和二十五年卒は、それでも部員数の多い方で、個性豊かな高城・荒川・大木・大屋の諸先輩が協力してサッカー部を引っ張り、そこそこの対戦成果を上げていました。しかしそれも今は、荒川洋三先輩を一人残すのみとなりました。

当時の標準的なフォーメーションは、「GK」1・「FB」2・「HB」3・「FW」5の形で、「FW」は、CFを挟んで左右の引き気味の位置にインナー、その外側にウイングという布陣でした。高城先輩は左のウイングで、細身の上体をまっすぐに伸ばし、左右に開いた手をヒラヒラと小刻みに振ってバランスを取る、颯爽としたきれいな走り方をするプレイヤーでした。

社会人となってからは、医学写真の業界に入り、その積極的な人柄から、常に撮影技術の向上に努め、周囲をリードする仕事振りで、篤い信頼を受けていたと聞き及んでいます。

また、開成卒業後、昭和二十五年卒同期会の役員を引き受け、同期の活発な同窓会活動の世話役を果たされました。



医学写真の業界でもスポーツマンとして知られていた高城先輩

惜しむべき人を失いました。開成サッカー部は、重要な御意見番を失いました。我ら後輩は、高城先輩の足跡を精細に辿ることで、開成サッカー部の一層の発展を期さなければならぬと、今更ながら痛感するものであります。

## 出路雅夫君追悼の辞

昭和45卒 長野 文昭

出路と初めて会ったのは、中学の1年5組の教室だったよね。一番廊下に近い列で直ぐ前が君の席だった。クラスで最初に話をしたのは君だった。教室でサッカー部の部員勧誘があったときに、いち早く手を上げた君に、長野も一緒に入ろうよ、と言われてつい手を上げたのを覚えている。サッカー部顧問の松本先生が担任だったせいかもしれない。その時以来の付き合いになったな。

6クラスもあったのに入部したのは、二人だけだった。肥満児だったので練習は辛かった。3キロコースからやっこの思いで

帰って来たグラウンドに、君は平然と立っていた。1年生が二人だけなので練習はきつかった。人数が増えれば少しでも楽になるのでは、と考えた。学年でチームを作りたい、と理由を付けて二人で同級生を誘ったね。亀山、関川、奥村、飯田たちが加わってくれたな。

高校1年の秋、僕が部長に指名されたとき、君はマネージャーと一緒に引き受けてくれた。試合に勝ちたい、と一緒に練習メニューを考えた。新井さんにもしごかれた。

高校を卒業してからの君の思い出は、君の家でアルバイトしたこと、何回か一緒に飲んだことと、入院した君をお見舞いしたことしか覚えていない。成城大学でサッカーを続けていた君が、ヘディングで競り合い、頭蓋骨を陥没して入院したときは驚いた。もっと驚いたのは去年の入院だった。体調が悪いとは聞いていたが、ショックだった。ベッドで寝ていた君の声は聞けなかった。でも少しふくらしたけれど、高校の頃の君のままのようだったな。握った手に力は無かったけれど、柔らかに暖かかったよ。

最近、しばらく会っていないかったかもしれない。思い出そうとしても、途中の記



後列中央が出路雅夫君

憶は途切れ途切れで、開成サッカー部の君の姿しか思い出せない。そう、これからもずっとそうなってしまう。残念で堪らない。もつと会って話ができれば良かった。でも、当分の間のこともかもしれない。その時はよろしく頼む。そうそう関川に会えるかもしれないね。そんな楽しみもあるな。それではまた。



## ご報告

OB会総会 11月23日 開成食堂



挨拶する藤崎会長



安藤事務局長が食事もたっぴりと手配、現役の食欲は旺盛です。



OB会忘年会 12月3日 神田「好好」



上の写真はオールドOB。左の写真は、挨拶する「東京カップ」出場の若手OB。



ゴルフコンペ 3月29日



3月29日（日）にサッカー部OB 14名で「ゴルフコンペ」を行いました！



### 事務局からのお知らせ

現役への60万円の助成、フットサル大会への助成、首都圏チャンピオンズカップへの広告、亡くなった仲間への生花「蹴友」の増ページなど、会員と活動の増加に伴い出費も増加しております。つきましては、会費のご協力、よろしくお願いいたします。